

令和五年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 定時制の課程（追検査）

Ⅱ 国 語

注 意 事 項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は 問四 までであり、1 ページから 13 ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の ○ の中を塗りつぶしなさい。
- 5 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番



問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の a ～ d の各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|------------|----------|---|-------|---|-------|---|------|
| a | 返信を催促する。 | (1) とくそく | 2 | さくせい | 3 | さいそく | 4 | いらい |
| b | 困難に遭遇する。 | (1) そうなん | 2 | ほうちやく | 3 | ちよくめん | 4 | そうぐう |
| c | 募金集めに奔走する。 | (1) ふんとう | 2 | ほんそう | 3 | じんりよく | 4 | ばんそう |
| d | 研究者に憧れる。 | (1) えらば | 2 | したわ | 3 | こばま | 4 | あこが |

(イ) 次の a ～ d の各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 冬物のヨウフクを買う。
- | | | | |
|---|--------------|---|-----------------|
| 1 | 見事な技にカンブクする。 | 2 | 神前にハイフクする。 |
| 3 | 論文にフクダイをつける。 | 4 | 部下にゼンブクの信頼を寄せる。 |
- b 次世代のツウシンモウを整備する。
- | | | | |
|---|--------------|---|----------------------|
| 1 | 体力をシヨウモウする。 | 2 | 前の走者をモウレッツな勢いで追いかける。 |
| 3 | 目の奥のモウマクを守る。 | 4 | 起こり得ないことをモウソウする。 |

- c 誤りをシテキする。
- | | | | |
|---|-------------|---|---------------------|
| 1 | 船のキテキが港に響く。 | 2 | 不正をテキハツする。 |
| 3 | 窓にスイテキがつく。 | 4 | 偉業にヒツテキするほどの活躍を見せる。 |

- d 流行歌のカえ歌を披露する。
- | | | | |
|---|-----------------|---|------------------|
| 1 | 登山道に落ち葉がタイセキする。 | 2 | 国家のアンタイを願う。 |
| 3 | 休日をタイダに過ごす。 | 4 | 状況を見てダイタイ案を提示する。 |

(ウ) 次の文章は、劇場での終演アナウンスの一部である。文章中の——線 1 ～ 4 について、敬語の使い方が適切でないものを一つ選び、その番号を答えなさい。

以上をもちまして本日の公演は終了いたしました。退場については係員がご指示²なさいますので、忘れ物のないように気をつけてお帰り³ください。またの来場を、心よりお待ち申し上げ⁴ております。

(エ) 次の文章中の□に入れることわざとして最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

結成二十年のベテラン漫才師の二人は、マイクの前に立った瞬間から巧妙な掛け合いを演じた。まさに□だと思った。

- | | | | |
|---|-------|---|--------|
| 1 | 阿吽の呼吸 | 2 | 天狗になる |
| 3 | 鬼が笑う | 4 | 仏の顔も三度 |

(オ) 次の例文中の——線をつけた「られる」と同じ意味で用いられている「られる」を含む文を、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 自分の提案が議長から認められる。

- 1 今朝の気温からは春の気配が感じられる。
 - 2 間もなく大事なお客さんが来られる。
 - 3 自ら進んで手伝ったことをほめられる。
 - 4 努力をすれば逆境を乗り越えられる。
- (カ) 次の俳句を説明したものととして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

小澤 実
おざわ みのる

- 1 「子燕の」と前置きした後には状態の変化を表す言葉を繰り返して用いることで、巣立ちの時期を迎えた子燕たちが一羽ずつ順番に巣から飛び立っていく様子を、感動的に描いている。
- 2 「子燕のこぼれむばかり」という言葉の後に同様の状態を表す言葉を置くことで、食欲が旺盛な子燕たちがえさを巣からたくさんこぼしてしまっている様子を、情景的に描いている。
- 3 「こぼれむばかりこぼれざる」と子燕たちの状態を表す言葉を重ねることで、巣を小さく感じさせるほどに成長した子燕たちが生き生きとしている様子を、臨場感豊かに描いている。
- 4 「こぼれざる」という文語を句の結びに用いることで、生まれたばかりのはずの子燕たちの鳴き声が聞こえず家の中で静かに聞き耳を立てている作者の様子を、絵画的に描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

アニメ制作会社で働く「和山」は、長寿アニメ『お江戸のニイ太』の担当をしている。「和山」は、原作者の「左近寺（先生）」から嫌われていると思いついてため、「左近寺」との打ち合わせを、前任の「七神（ナナさん）」に任せきりにしていた。ところが「七神」の退職が決まり、「和山」は、『ニイ太』放送開始三十周年記念として制作されるオープニング（OP）映像の作画を、「左近寺」に依頼するため一人で事務所を訪ねたが、「左近寺」から「やっと一人で来たな。」「待ってたよ。」と言われた。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(辻村^{つじむら} 深月^{みづき}「レジェンドアニメ!」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 反芻^{はんそう}は繰り返し考えること。

瞳^{ひとみ}は「和山」が勤めるアニメ制作会社の同僚で、『ニイ太』のオープニング映像の監督。
左近寺プロ^{さきんじ}は「左近寺」が代表を務める漫画制作プロダクションの略称。

(ア) —線1「待ってた、という言葉が、胸に沁みた。」とあるが、そのときの「和山」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 成長を期待してくれているがゆえに、「左近寺」がこれまで冷たい態度をとってきたのだということがわかり、自分を担当者として認識してくれていたことを嬉しく思っている。

2 担当者として認めてくれるからこそ、「左近寺」が自分に対して思いを遠慮なしにぶつけてくるのだということがわかり、対等に仕事ができていることを素直に喜んでいる。

3 信じてくれているがゆえに、自分が事務所に来るのを「左近寺」が楽しみにしてくれていたということがわかり、作家に頼られている担当者としての自分を誇らしく感じている。

4 緊張を感じ取ってくれていたからこそ、「左近寺」がいつも優しく言葉をかけてくれていたということがわかり、一人前の担当者として成長していくと決意を新たにしている。

(イ) —線2「これは、和山の仕事だ。」とあるが、そのときの「和山」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「左近寺」に対して好意的な感情を抱いているわけではないが、ののしられたとしても担当者としての仕事だと割り切って、精神的につらい現状を耐え抜こうと自らを奮い立たせている。

2 今回の仕事をあきらめたくはないが、「左近寺」に依頼を断られたとしても自分にできることは全てやり尽くしたため、その時はあっさり引き下がろうと自身を納得させようとしている。

3 「左近寺」を恐れる気持ちに変わりはないが、たとえ怒られたとしても今回の仕事を担当者である自分以外の人に任せるべきではないと考え、自分の力でやり遂げようと強く決意している。

4 担当者である自分にとって「左近寺」は格上の存在だが、作家に仕事をさせることが自分に任されている仕事だと気付き、自分の言うべきことをしっかり伝えようと気を引き締めている。

(ウ) —線3「その間が和山にとっては途方もなく長い時間に感じられた。」とあるが、そのときの「和山」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「左近寺」が返事をしてくれないのはわざとだと見抜き、じれったく思う気持ちが募っている。

2 「左近寺」がすぐに返事をしなかったため、どんな言葉が返ってくるかわからず緊張している。

3 「左近寺」の機嫌をさらに悪くさせてしまったことに気付き、申し訳ない気持ちに苦しんでいる。

4 「左近寺」の本当の考えを表情からは読み取ることができず、考えを探ることに集中している。

(エ) —線4「引き受けてもらった矢先なのに、こちらの腰が逆に退けてしまう。」とあるが、そのときの「和山」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 引き受けた仕事に対して力を尽くす人物であると「左近寺」という作家を理解しており、体調が万全とは言えない今の状態で無理に仕事をさせてしまうことに気おくれしている。

2 思うように腕を動かすことができない「左近寺」に無理をさせてまで新しい絵を描いてもらったとしても、高い水準の絵が完成しないかもしれないと心配な気持ちになっている。

3 自分が気に入った仕事かしょうとしない「左近寺」が仕事を引き受けたことを意外に思う一方で、思ったよりも簡単に交渉が進み仕事が済んでしまったことに拍子抜けしている。

4 多忙なはずの「左近寺」が新たに仕事を引き受けることによって担当者である自分の仕事の量がさらに増えてしまうことに気付き、仕事を依頼してしまったことを後悔している。

(オ) — 線5「左近寺が微笑んだ。」とあるが、その理由を説明した次の文章中の I・II に入れる語句の組み合わせとして最も適するものを、あとの1〜4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

二年前、『ニイ太』の放送時間帯を変更するという話がテレビ局からあり、その話を阻止するために、原作者である「左近寺」は新作を描いてほしいと依頼された。当初は体調が優れない自分に対する I を感じられず腹が立ったが、原作者が生み出したキャラクターには作品の世界を数十倍に広げられるほどの力があるという「和山」の考えを知ったことで、『ニイ太』は自分の作品だが、II ということを再認識し、できないと決めつけていた新作に挑戦したところ、作品を完成させることができ嬉しかったと思っっているから。

- 1 I 尊敬の念 II 他人に任せても問題ない
- 2 I 同情 II すでに自分の手から離れてしまった
- 3 I 思いやり II 自分だけのものではない
- 4 I 遠慮 II 他人が作品の方向性を決めるのだ

(カ) — 線6「左近寺先生は、やっぱり、すごい。」とあるが、ここでの「和山」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 思慮深く慎重な性格であるがゆえに、熟考を重ねた末に仕事を引き受けることをようやく決断してくれた「左近寺」の考えがこれ以上は揺らがないようにしようと、気持ちを確かめるように読む。
 - 2 漫画家としての力量の高さは言うまでもなく、未熟な自分の無理な要望を受け入れてくれた上に感謝までしてくれた「左近寺」の人間としての度量の大きさに対して、尊敬の念を表すように読む。
 - 3 テレビ局からの一方的な圧力に屈しなかっただけでなく、アニメ映画史上において自らの力だけで最高の興行収入を上げることに成功した「左近寺」の強い精神力に対して、感じ入るように読む。
 - 4 他の漫画家と交流する機会が少なく、アニメ業界での孤独感を深めていた「左近寺」と一対一の打ち合わせを重ねたことよって築けた信頼関係を良好に保つていくため、安心させるように読む。
- (キ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 病気を抱えながらも新作を生み出し続けている「左近寺」の職業意識の高さに心を動かされ、自分も担当者として支えていこうと決意する「和山」の姿を、巧みな心情表現を用いて描いている。
- 2 「左近寺」を恐れるあまり自分の担当者としての存在意義を見失ってしまい、アニメ業界で働く中で社会人として挫折を味わいながらも奮闘する「和山」の姿を、比喻を多く用いて描いている。
- 3 担当するアニメ番組の新たなオープニング映像をめぐって「左近寺」と意見が対立している状況の中で、自分の意見を通すために粘り強く交渉を重ねてゆく「和山」の姿を、力強く描いている。
- 4 関わりを避けてきた「左近寺」という恐れ多い存在から感謝され嬉しく思うとともに、自分が携わる仕事の価値に気付かされ職業人として成長していく「和山」の姿を、会話を軸に描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(川瀬 和也)「考え抜く力」から。一部表記を改めたところがある。

(注) フィクションⅡ想像によって作り上げられた物語。

バブル期Ⅱ一九八〇年代の日本における好景気。

マドラーⅡ飲み物など、容器に入った液体をかき混ぜるための棒。

プロセスⅡ物事が進む過程。

(ア) 本文中の **A**・**B** に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 A たとえば B ところで 2 A なぜなら B それとも

3 A そして B まさに 4 A つまり B だから

(イ) 線1「この考え方」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 私たちが見聞きしたことを第三者が現実世界の出来事であると判定したとき、私たちは新しい事実を知ったと主張できるとする考え方。

2 私たちが見聞きしたことと現実世界の出来事が同一のものだと自ら判定できたとき、事実を事実として知ることができるとする考え方。

3 私たちが直接的に見聞きすることができない出来事を事実だと判定するかどうかは、私たちの認識能力の差に左右されるとする考え方。

4 私たちが新しく何かを知ったということを判定するには、見聞きしたことと対応する事実が現実世界にあることが前提だとする考え方。

(ウ) 線2「このような誤り」とあるが、ここでの「誤り」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 映画の中の出来事と対応する事実は現実世界にはないという常識が成立しなくなることで、現実と空想を区別することができなくなってしまうようなこと。

2 現在では当たり前前の事実が過去には間違いだとしていたために、最新の情報こそが正しい情報だと錯覚し事実を見極められなくなってしまうようなこと。

3 何度も見聞きすると事実だと思い込んでしまう私たちの心理的傾向のために、実際に起きている出来事の信ぴょう性がわからなくなってしまうようなこと。

4 過去においては常識と見なされていた事柄が後の時代になって否定されることで、私たちが正しい認識を持っていたとは言えなくなってしまうようなこと。

(エ) —線3「懐疑論に直面したとき、問題になっているのは、私たちの認識の客観性だ。」とあるが、そのように筆者が述べる理由を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 現実世界のあらゆる出来事の内存在自体を疑って考えることによって、主観的な認識と現実世界に対応する事実を持つ認識とを分けることの難しさを私たちが知ることができると考えているから。
- 2 現実世界の出来事の内全てを夢であるとされることによって、世界のあらゆる場所で起こっている出来事が現実世界の出来事であると私たちが証明することは難しくなってくると考えているから。
- 3 現実世界におけるあらゆる出来事の内存在を排除しようと考えることによって、現実世界に対する私たちの認識が根拠のないものだという可能性を私たちが自覚するようになるかと考えているから。
- 4 現実世界で起こったとされる全ての出来事の内存在を否定しようとすることによって、私たち人間が築き上げてきた歴史がなくなってしまうという事態が引き起こされてしまうと考えているから。

(オ) —線4「認識論は知的なパズルのように思われてしまうかもしれない。」とあるが、このことについて筆者はどのような考えを述べているか。それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 現実味のない知的なパズルとは違い、認識論は人生に深く関わるとともに効用をもたらす。
- 2 事実と空想を区別できない知的なパズルとは異なり、認識論は合理的な判断が可能である。
- 3 正しい答えがない知的なパズルとは異なり、認識論は間違いを修正するための根拠を提示する。
- 4 懐疑論に抵抗できない知的なパズルとは異なり、認識論は私たちが現実世界へと引き戻す。

(カ) —線5「私たちは職業人として、また一人の人として、新たな状況に適応し、成長することができない。」とあるが、それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 仕事に関係することとして積み重ねてきた知見では課題を解決できないというような挫折を経験すること、私たちが職業人としての自身のあり方を考え直すことができるようになるということ。
- 2 信じてきたやり方があまりにも役に立たないというような仕事上の困難な状況を経験すること、職業人としての私たちがこれまでの知見の不確かさに気づくことができるようになるということ。
- 3 仕事で身につけてきたやり方が通用しないというような信念が揺らぐ経験をすること、私たちが職業人として様々なことに挑戦し新たな知見を獲得していくことができるようになるということ。
- 4 職業経験から得た知見を駆使しても直面する問題を解消するには至らないというような深刻な経験をすること、私たちが職業人としての力量不足を認識することができるようになるということ。

(キ) 本文について説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 哲学が扱っている問題と人生の問題との深い関わり合いを認識論をもとに追究していくことを通して、時代とともに変化する子ども達の適切な育て方について、順序立てながら述べている。
- 2 認識論にもとづき物事に対する正しい認識を獲得していく過程を考察することを通して、哲学が扱う問題と人生の問題にはつながりがあるということ、具体例を示しながら述べている。
- 3 人が得た知識や経験を徹底的に疑うという懐疑論の哲学的な思考方法について説明することを通して、現実の出来事が事実として認定されない場合の物事の捉え方を、詳細に述べている。
- 4 誤った認識と正しいとされている認識を適切に区別していく懐疑論という考え方を通して、的確な判断を迫られる状況においての職業人としての判断基準について、論理的に述べている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

履軒先生は隠操ありて世に出でることを厭はれける。いつの頃にかありけん、古き器を商ふ店の前を過ぎられしに、目貫一かけ出で居たるを見て、望みにや応じけむ、懐中を探りて方金二つを取り出だし、これにて買ふべきよしをいふに、あるじ、「こは価より過分なり。」と辞するを、「苦しからじ。」とて目貫を取りて帰られ、机上に置きて玩賞あるに、たまたま客来りてこれを見、「こはよき品なり。譲り給へ。」といふに、頭をふりてゆるされず。客急に懐中に取り収め、金沓両をさし置きて逃げて去りぬ。先生冷笑して居られしが、その後かの古もの店を過るとして立ち寄り、方金二つを出だし、さきを買ひたる目貫の価を足すなりとて直に立ち去りけるを、商人大きに驚き、「すでに過分の金を受けたるに、又かかるとをせらるるは、いかなる人ぞ。」と立ち出でて、「見しりたるものやある。」と尋ねまどふに、一人あら見しりて、某の所に寓居する儒者なるよし申しけるに、この商人うるはしき籠にあたられけき魚ども積みて、誰といふ名もしるさず、ひそかに先生の宅に持ち行き、さしひいて逃げて去りけるとぞ。

〔見し世の人の記〕から。〕

〔注〕 隠操 俗世間から離れたがる性質。

目貫 刀装具の一種。

方金 四角形の金貨。

両 貨幣の単位。方金四枚で一両になる。

(ア) 線ア、エの中から、他と主語が異なっているものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ア 2 イ 3 ウ 4 エ

(イ) 線1 「苦しからじ。」とあるが、そう言ったときの「履軒先生」の考えを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 以前からどうしても欲しかった目貫が古道具屋にあり、目の前に欲しいものがあるのであればそのものの価値よりも高い値段がついていたとしても、悩むことなく買うべきだ。
- 2 古道具屋の前を通ったときに気に入った目貫があり、ついてる値段よりも高いと思われても自分が思う目貫の価値の代金を支払っているのだから、心苦しく思う必要はない。
- 3 以前から探していた目貫が古道具屋にあり、自分の暮らしを省みたときに生活に必要なお金が足りなくなったとしても、欲しい目貫が手に入るのであれば苦に感じなくてよい。
- 4 古道具屋に出かけたときに珍しい目貫を見つけてしまい、買おうとしたが自分が思っていた金額よりもはるかに値段が高くて自分には払いきれないため、値引きを要求したい。

(ウ) —線2「冷笑して居られし」とあるが、そうしたときの「履軒先生」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 見て楽しんでいた目貫を譲らないと断ったにもかかわらず、「客」が金を置いて持ち帰ってしまったことにあきれている。
- 2 大切にしていた目貫を譲り渡そうと決断したにもかかわらず、「客」が支払いを渋り出してしまったことに驚いている。
- 3 気に入っていた目貫を自慢げに披露したところ、羨ましく思った「客」が金を置いて持ち去ったことに怒りを覚えている。
- 4 布に包んで保管していた目貫を見せたところ、「客」が手で触れたため扱い方を知らない人に見せたことを後悔している。

(エ) —線3「さしいれて」とあるが、そうしたときの「商人」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 間違った値段で目貫を買わしてしまったことで「履軒先生」が不機嫌になってしまい、謝罪として新鮮な魚を贈ることで、人付き合いを避けるほどに気難しい「履軒先生」の機嫌をとろうとした。
 - 2 人里離れた山奥で暮らしているがゆえに魚を食べたことがない「履軒先生」に、新鮮な魚をふるまうことによって、過分な代金を請求してしまいひどく怒らせてしまった「履軒先生」に謝罪をした。
 - 3 住んでいる場所を隠して暮らすほどに「履軒先生」が疑い深いことは知っているが、目貫の値段交渉を有利に進めたいがために新鮮な魚を贈ることによって、「履軒先生」に誠意を見せようとした。
 - 4 目貫の代金としてすでに過分にもらっていたにもかかわらず、「履軒先生」がさらに上乘せしたことで居ても立っても居られなくなってしまい、立派な籠に新鮮な魚を入れて「履軒先生」に贈った。
- (オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「履軒先生」は、目貫を買うときに値段よりも高い代金を支払うことで、物事の道理をわきまえた上で思いやりの心をもった行動ができることを人々に示そうとした。
- 2 「履軒先生」は、苦勞して手に入れた目貫を持ち去られてしまったことでたいそう悔しがり、目貫を取り戻すために目貫を持ち去った人を探し出そうと手を尽くした。
- 3 「履軒先生」は、目貫の価値を見極めた上でそれに対してふさわしい代金を支払うことにこだわっただけでなく、自身の価値観にもとづいて行動し意志を貫き通した。
- 4 「履軒先生」は、人との交渉を得意としている上に話術にも優れていることを生かして、手に入れることが困難なほどに高価な目貫を一般的な相場よりも安く買った。

(問題は、これで終わりです。)

